

各位

株式会社トップカルチャー  
 代表取締役社長 清水秀雄  
 (コード 7640 東証1部)

## トップカルチャー 2012年10月期 第3四半期連結業績

# 売上高 250 億円で前年並み

## 超大型新店販管費増により営業利益・経常利益減益

売上高	25,019 百万円	(前年比	99.0%)
営業利益	568 百万円	(前年比	62.9%)
経常利益	480 百万円	(前年比	55.7%)
四半期純利益	61 百万円	(前年比	15.8%)

当第3四半期は、売上面では、当社グループの主軸である 蔦屋書店 事業において、レンタルの映像部門での低価格戦略を継続しており、来店客数およびレンタル貸出本数は増加しているものの、単価引下げによる売上減少をカバーできなかったことが影響し、全店の売上高前年比 99.2%、既存店の売上高前年比 94.5%となりました。

利益面では、昨年8月にオープンした前橋みなみモール店および3月にオープンしたフォレオ菖蒲店の超大型新店に伴う販管費の増加により、営業利益・経常利益ともに前年同期に比べ減益となりました。なお、第2四半期に固定資産に対する減損損失 189 百万円を特別損失に計上し、四半期純利益は 61 百万円(前年比 15.8%) となりました。

### ● 主力商品の書籍・文具が好調

書籍は売上高前年比 104.9%(既存店 98.2%)、文具は売上高前年比 113.1%(既存店 102.0%)と、第2四半期に引き続き好調に推移し、業績に寄与いたしました。 書籍は新店が底上げとなり、文庫・児童書・学参等を中心に前年を上回りました。文具も新店が底上げとなり、話題商品の投入・商品充足率強化・商品の入替の取り組みが奏功し、売上を順調に伸ばしております。

### ● 2012年10月期 通期連結業績予想(2011年11月1日~2012年10月31日)

レンタルの低価格戦略により増加しました来店客数をもとに、品揃え強化・MIX 売場等の展開で相乗効果を生み出し、更なる集客力強化を進めてまいります。また3月にオープンしましたフォレオ菖蒲店も大型店舗における商品提案力や運営力強化を確立させることで通期では、前年比増収を見込んでおります。

また、引き続き仕入原価見直しおよび運営効率改善を図り、収益体質の改善に取り組んでまいります。

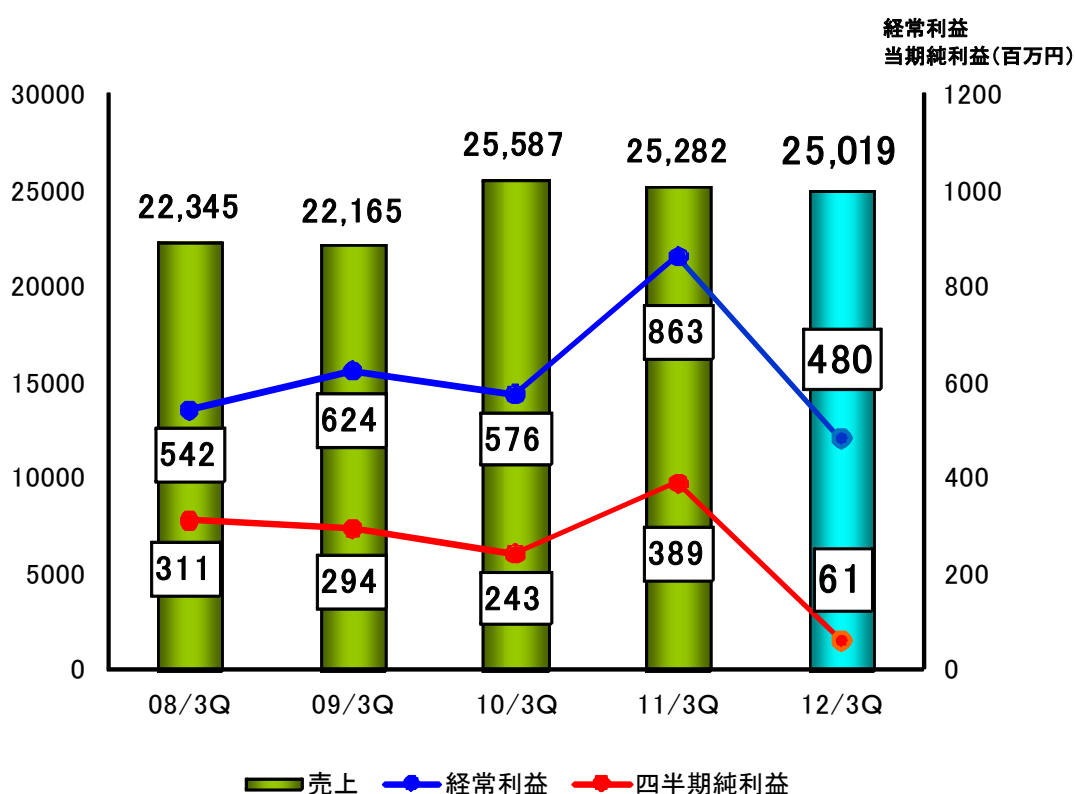
2012年6月1日に公表したとおり、2012年10月期、売上高 34,700 百万円(前年比 103.9%)、営業利益 1,110 百万円(同 102.0%)、経常利益 1,020 百万円(同 100.7%)、当期純利益 340 百万円(同 74.3%)を見込んでおります。

## 1. 連結業績の概要

## 【連結サマリー】

(百万円)

	2011年10月期 第3四半期		2012年10月期 第3四半期		前年比 (%)
	金額	構成	金額	構成	
売上高	25,282	100.0	25,019	100.0	99.0
売上総利益	8,054	31.9	7,976	31.9	99.0
営業利益	904	3.6	568	2.3	62.9
経常利益	863	3.4	480	1.9	55.7
四半期純利益	389	1.5	61	0.2	15.8
EPS(円)	32.45		5.13		15.8



## 【蔦屋書店部門サマリー】

(百万円)

	2011年10月期 第3四半期		2012年10月期 第3四半期		前年比 (%)
	金額	構成	金額	構成	
売上高	24,507	100.0	24,317	100.0	99.2
売上総利益	7,798	31.8	7,733	31.8	99.2
営業利益	843	3.4	504	2.1	59.9
経常利益	862	3.5	508	2.1	58.9
四半期純利益	396	1.6	100	0.4	25.3
EPS(円)	33.06		8.37		25.3

## 2. 商品別売上高の状況

- ・ 書籍は新店の業績が寄与し、また売上上位商品の充足率強化および定番商品の品揃え強化により売上の底上げを図ったことが奏功いたしました。
- ・ レンタルは映像部門での低価格戦略の継続により、来店客数およびレンタル貸出本数は増加したものの単価引き下げによる減少をカバーできず前年比減少となりました。
- ・ 文具は新店の業績が寄与し、また話題商品の投入・商品充足率強化・商品の入替の取り組みが奏功し、売上を順調に伸ばしております。
- ・ 販売用CD・DVDは発注精度の向上による在庫効率化と商品提案力の強化に取り組んでおります。

(百万円)	2011年10月期 第3四半期	2012年10月期 第3四半期			既存店	
	金額	金額	増減額	前年比	前年比	
蔦屋書店部門	書籍	10,517	11,028	511	104.9	98.2
	レンタル	5,821	5,142	△679	88.3	87.8
	販売用CD	2,273	2,122	△151	93.3	90.3
	文具	1,880	2,126	245	113.1	102.0
	販売用DVD	1,495	1,320	△174	88.3	85.3
	その他	2,518	2,576	57	102.3	
	小計	24,507	24,317	△190	99.2	94.5
トップブックス部門計	632	555	△77	87.8		
グランセナ部門計	142	147	4	103.1		
合計[連結]	25,282	25,019	△263	99.0		

## 3. 出店・改装の状況

- ・ 2012年3月に、当社最大規模となる2300坪の超大型複合店「蔦屋書店 フォレオ蔦蒲店」を埼玉県久喜市に出店いたしました。
- ・ 2012年1月に、既存店1店を改装してカフェを導入し、BOOK&CAFEスタイルの業態に変更いたしました。
- ・ 2012年10月に、茨城県に超大型複合店を1店出店する予定でありましたが、2012年11月に変更となりました。

**グループ合計店舗数 75 店舗 延床面積合計 37,870 坪**

(1店当たり 平均 505 坪)

【2012年10月期 出店・改装計画】

出店	場所	開店日
BOOK&CAFEスタイルへの改装実施 蔦屋書店 横越バイパス店	新潟県	2011/1/28
蔦屋書店 フォレオ蔦蒲店新規出店	埼玉県	2012/3/17
蔦屋書店 ひたちなか店新規出店	茨城県	2012/11 予定

#### 4. 2012年10月期の業績予想

- ・ 2012年6月1日に公表した通期連結業績予想に変更はございません。
- ・ 書籍やレンタルの更なる品揃え強化、MIX 売場等の展開を進め、複合店舗としての相乗効果を創出してまいります。また、引き続き仕入原価の見直しや運営効率化、販管費の適正化を推進してまいります。

【連結】

(百万円)

	2011年10月期		2012年10月期		前年比 (%)
	金額	構成	金額	構成	
売上高	33,402	100.0	34,700	100.0	103.9
経常利益	1,012	3.0	1,020	2.9	100.7
当期純利益	457	1.4	340	1.0	74.3
EPS(円)	38.12		28.33		74.3

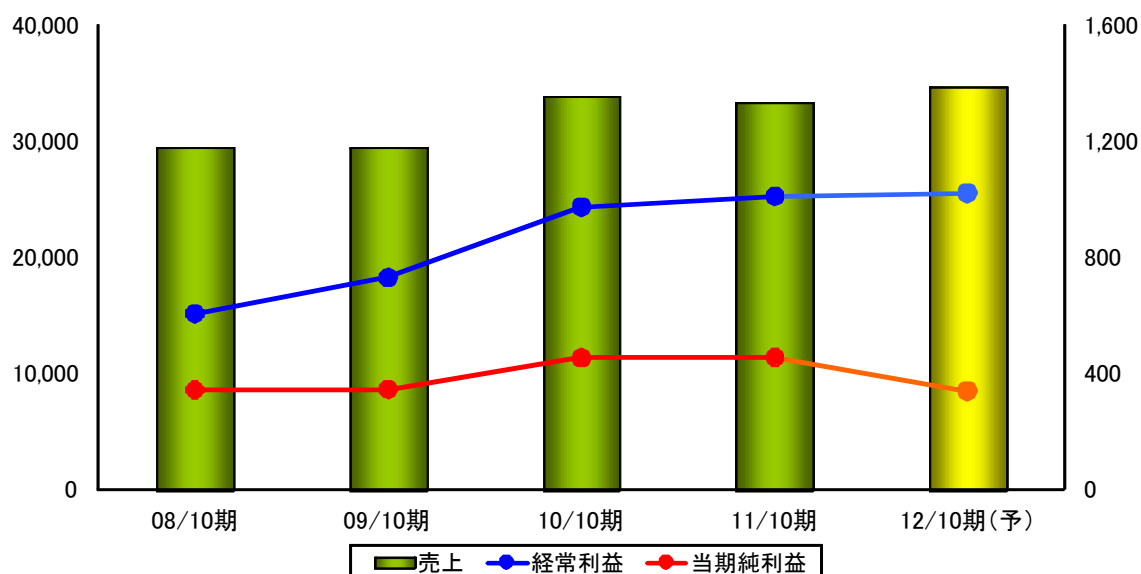
【蔦屋書店部門】

(百万円)

	2011年10月期		2012年10月期		前年比 (%)
	金額	構成	金額	構成	
売上高	32,404	100.0	33,800	100.0	104.3
経常利益	1,026	3.2	1,030	3.0	100.3
当期純利益	480	1.5	360	1.1	75.0
EPS(円)	40.01		30.00		75.0

売上高(百万円)

経常利益  
当期純利益(百万円)



本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

**蔦屋書店**

【本資料に関するお問い合わせ先】

株式会社トップカルチャー 取締役管理部長 遠海 武則

TEL: 025(232)0008 / FAX: 025(265)1260

<http://www.topculture.co.jp>